

2012 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 ○複合史料領域
2.申請課題名 関連史料の収集による長篠合戦の立体的復元
3 新規・継続の別（丸をつけてください） 新規 ○継続
4.申請者 中世史料部門・助教・金子拓
5.所内共同研究者 古代史料部門・助教・藤原重雄 中世史料部門・准教授・鴨川達夫・渡邊正男／同助教・黒嶋敏・須田牧子・遠藤珠紀 近世史料部門・教授・保谷徹／同助教・及川亘
6.希望する研究期間 2010 年度～ 2015 年度 （ 6 年間）
7.課題の概要(400 字程度)（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 天正 3 年（1575）5 月に織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼軍が戦った長篠合戦は、本格的に鉄炮を用いた合戦として日本史上有名である。この戦いについては、文書のほか、合戦に参加した武士たちの覚書、系譜史料、軍記物語などの文字史料にとどまらず、合戦屏風・合戦図などの画像史料も豊富に残されている。近年ではこれらの史料にもとづいた研究も少なからず発表され、また、長篠合戦において旧来定説となっていた信長・家康軍による鉄炮の「三段撃ち」が実際に行われたかどうかをめぐる、大きな論争の問題にもなった。本共同研究は、これら合戦関係史料についてジャンルを問わず広く収集し、相互に関連づけながら検討することによって長篠合戦の具体像を明らかにする。
8.研究の目的(400 字程度) 長篠合戦を研究するにあたり、合戦に至る（時間的）経緯や両軍の布陣地などの地理的情報の把握は必要不可欠である。これらの点は、文書・記録をはじめとした良質な史料を綿密に解読することにより、長篠合戦前後の基本的な事実経過を明らかにする。 いっぽうで覚書・系譜史料、合戦図屏風などは、合戦参加当事者もしくはその子孫により、何らかの意図をもって作成されたものである。史料作成の背後にある意図（史料作成の動機）を正確につかむことで、個々の史料の史料的価値を判断し、合戦像の復元に活かしたい。この作業をとおして、後世の人びと（もしくは社会集団）が「長篠合戦」という歴史的出来事に何を求めていたのか、どのように読み解こうとしていたのかがわかると思われる。覚書・系譜史料については、2010～11 年度共同研究において、合戦に参加した武士の子孫（近世大名や、その家臣として生き残る）の家に残された史料の所在情報蓄積を行い、和歌山県文書館や中津市立図書館への調査を行っている。2012 年度もひきつづきこれらを継続し、さらに新たな調査先での調査も進める予定である。そのうえで、江戸時代において確立された「長篠合戦像」を多面的に追究する。 また 2010～11 年度において行った主要な合戦図屏風の熟覧調査をもとに、残された長篠

合戦図屏風の情報収集と熟覧調査を継続させ、長篠合戦図屏風研究を進め、これもまた江戸時代の人びとが画像のなかに凝縮させた「長篠合戦像」の何たるかを明らかにしていきたい。

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

本共同研究は長篠合戦を中心とした合戦史料の収集と研究が目的だが、最終的にそれら史料を収める史料集(『大日本史料』)刊行を目指している。編年史料集という性格や、編纂作業の特殊性から、『大日本史料』は史料編纂所の担当者が責任をもって編纂刊行する体制をとっている(もちろん従来もその都度所外の研究者の協力・助言を仰いでいることはいうまでもない)。

長篠合戦を収録する予定の『大日本史料』第十編の一冊は、史料の分量から、合戦当日一日が一冊になると予定されている。編年史料集でありつつ、事件史的史料集の性格もあわせもち、また死去した人物の卒伝を収めるなど人物史的史料集の一面もある『大日本史料』だが、合戦当日一日が一冊という特殊な構成をとることにより、それら複数の性格を象徴的に示す冊になるだろうし、所外研究者の編纂協力を得られやすいという利点もある。共同研究が史料編纂所の基幹的業務である史料集編纂にどのように関わることができるのかを試みる実験的作業にもなると期待される。

10. 研究の実施計画

・研究会の開催

研究成果の公開と情報の共有化を目的とした研究会を開催する。

(2010・11年度は、4度の研究会を開催し、研究情報の共有化をはかっている)

・関係文献史料の調査

2010年度共同研究により、合戦に関する覚書・系譜史料の所在情報蓄積を行い、史料所蔵機関への調査を行った。2011年度もひきつづき情報蓄積を継続させつつ、調査を行っており、2012年度も同様に関係史料の調査を行う予定である。

・合戦図屏風の調査

2010～11年度は徳川美術館所蔵屏風・名古屋市博物館所蔵屏風の熟覧調査、2011年度は犬山城白帝文庫所蔵屏風の熟覧調査を行った。それにひきつづき、豊田市所蔵・大阪城天守閣所蔵屏風などの調査を行う予定である。

・史料稿本・収集史料の入力(大日本史料総合データベースへの格納)

11. 研究成果の公開計画

共同研究により収集した史料を『大日本史料』第十編編纂に活用する(長篠合戦の冊は2019年度刊行予定)。

入力した史料稿本フルテキストデータ・収集史料フルテキストデータを大日本史料総合データベースに格納する。

12. 共同研究員にもとめる役割

長篠合戦に参加した武士の末裔が作成した覚書・由緒書(主に近世史料)などを共同して調査、解説する。画像史料に関心を持ち、文献史料を念頭におきながら合戦図屏風の調査と解説を行う。合戦で戦死した武将について、伝記的史料の収集調査を行う。